



ざんぐり



京都SKY大学
同窓研修会会誌
第108号



京都府立植物園 同窓研修会主催・ミニ講座風景(12・13ページ参照)



一 目 次

通 常 総 会	会長就任のご挨拶..... 井上昌幸(2)
	令和4年度 役員名簿 京都SKY大学運営員名簿..... (3)
	令和3年度 事業報告 業務報告 収支決算報告書..... (4)(5)(6)
	令和4年度 事業計画 業務計画 収支予算..... (7)(8)(9)
	講演会「京都の地蔵盆」を聞いて..... 井上昌幸(10)
春のウォーキング	洛西ニュータウン 春のウォーキングに参加して 堀井信一(11)
同窓研ミニ講座	京都府立植物園での植物観察会..... 岩本照美(12)(13)
事務局だより	夏のバス研修旅行のご案内、他..... (14)

発行 / 京都SKY大学同窓研修会
編集 / ざんぐり編集委員会



会長就任のご挨拶

井 上 昌 幸

京都S K Y大学同窓研修会の会員の皆様には、平素から、会の運営や活動に多くのご支援・ご協力を賜り、役員一同、心より御礼を申し上げます。

去る4月22日に開催致しました令和4年度通常総会には、多くの皆様にご出席を頂き、全議案につきご賛同、ご承認を賜り、滞りなく終了することが出来ました。本当にありがとうございました。

当日の総会におきまして、昨年度に引き続き会長を担当させて頂くことになりました。甚だ微力ではございますが、精一杯の努力を致す積りでございます。2人の新理事を含む役員の方々と力を合わせて、当会の発展に尽力致しますので、温かいご支援・ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

今更申し上げるまでもなく、本会は会員皆様方の自主活動を通じて、教養を身につけ、相互の親睦を図り、生きがいと健康作りをもって、生涯学習に励むことを目的に設立されています。この目的のため、今年度も様々な事業を実施して参ります。京都S K Yシニア大学への運営員派遣、研修講座、研修旅行、健康福祉活動、地域活動等の実施、会報「ざんぐり」の発行等が中心の事業となります。また、「京都見聞コース」の運営も大きな柱の一つです。これらの事業活動を充実したものにするには、会員皆様方のご支援・ご協力がとても大切です。また、皆様方からの積極的なご意見を頂くことが重要です。是非とも当会の役員にお声を聞かせて頂きますよう、お願い申し上げます。

先の総会では、今年度の事業計画、業務計画、予算を承認して頂きましたが、新型コロナウイルスの終息が見通せない状態であり、各種の事業を計画通りに実施するには無理な事態が発生するのでは、と懸念されます。皆様方の安全・安心を第一に各種の行事を行ってまいります。中止を含めて、計画の見直しを臨機応変に対応していきたいと考えています。その際はご迷惑をおかけすることが多々あると思いますが、ご了承の程、よろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルスの終息が見通せない中、くれぐれも皆様方、ご家族の方、ご自愛頂きますようお祈りいたします。

なにとぞ、昨年度にもまして、格別のご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。

令和4年度 京都SKY大学同窓研修会 役員名簿

(50音順)

役 職 名	氏 名
会 長	井 上 昌 幸
副 会 長	岩 本 照 美 事業部 研修講座
	木 村 高 志 総務部 総 務 健康福祉
	山 本 建 三 業務部 地域活動
理 事	伊勢田 龍 雄 地域活動
	伊 藤 哲 研修旅行 ざんぐり編集 (新任)
	小 島 哲 三 研修旅行 会 員 業 務
	小 林 静 枝 健康福祉 ざんぐり編集
	関 矢 幸 子 総 務 ざんぐり編集
	寺 田 泰 三 研修講座
	中 曾 偉 人 健康福祉 (新任)
	西 崎 久美子 研修旅行 地 域 活 動
	西 峯 順 子 総 務 会 員 業 務
	保 知 保 研修旅行 会 員 業 務 ざんぐり編集
	村 田 潤 子 会 計 研 修 旅 行
	吉 田 進 研修旅行
	吉 村 辰 江 研修講座 会 員 業 務
相 談 役	沖 野 一 晃

監 事	中 野 京 子
	堀 井 信 一
	米 澤 可 矢 (新任)

令和4年度 京都SKYシニア大学 運営員名簿

(計17名)

コ ー ス	開 催 日	氏 名
歴彩・京 都 学	火・午後	岩 本 照 美 吉 村 辰 江 中 曾 偉 人
体験・地域活動	火・午前	木 村 高 志 寺 田 泰 三
健康・スポーツ	水・午後	西 崎 久美子 伊勢田 龍 雄 伊 藤 哲
スマホマイスター	火・午後	小 林 静 枝 小 島 哲 三
京 都 見 聞	水・午後	井 上 昌 幸 関 矢 幸 子 西 峯 順 子
		村 田 潤 子 山 本 建 三 吉 田 進
		保 知 保

令和3年度 事業報告

令和4年4月22日

部 門	事 業 内 容	参加者
研 修 講 座	①令和3年4月23日(金)「ブラックホール研究の今」 (通常総会講演会) 講師: 京都大学教授 嶺重 慎 先生 会場: ハートピア京都3F 大会議室	86名
	②京都SKYセンターとの共催講演会 会場: テルサホール ・令和3年7月5日(月) 「『夫源病』命名医師が語る、ストレスをためない夫婦のあり方」 講師: イシクラメディカル代表 石倉 文信 氏	SKY大学 受講生以外 6名
	・令和3年11月29日(月) 「逆説の日本史」 講師: 作家 歴史研究家 井沢 元彦 氏	10名
	・令和4年1月17日(月) 「死を背負って生きる」 講師: 淀川キリスト教病院名誉ホスピス長 柏木 哲夫 氏	13名
	③ミニ講座「春の草花巡り」 講師: 京都植物園公認ガイド 青木 壽子氏 ・令和4年3月28日(月) 会場: 京都府立植物園	16名
	④「こぼれ話」発行 3回 「京都SKY大学同窓研修会」全会員に配布 9月「知恩院のうぐいす張り」 12月「鴨川の源流」 3月「京の通り名」	
研 修 旅 行 (3回/年)	①令和3年5月21日(金) 春季 「悠久の歴史を訪ねて、明日香村周遊」	中止
	②令和3年10月 秋季	中止
	③令和4年1月21日(金) 新春初詣 「大阪堺方面への新春観光・参拝」	中止
健 康 福 祉	①ウォーキング ・令和3年4月12日(月) 「春のウォーキング」 「明智光秀最後の城・勝竜寺城、恵解山古墳、長岡天満宮」 ・令和3年10月25日(月) 「秋のウォーキング」 雨中実施 「明智光秀最後の城・勝竜寺城、恵解山古墳、長岡天満宮」	中止 17名
	②目標歩数歩こう会 ・第45回 令和3年4月1日～5月31日迄 ・第46回 令和3年10月1日～11月30日迄	19名 16名
地 域 活 動 (2回/年)	①令和3年5月14日(金) 「春季地域美化活動」 大山崎町での活動 JR山崎駅より天王山山麓 宝積寺(宝寺)、 観音寺(山崎聖天) 方面の清掃活動	申込者29名 コロナ 蔓延の為 順延
	②令和3年11月26日(金) 「秋季地域美化活動」 大山崎町での活動 順延の春季活動内容を実施 JR山崎駅より天王山山麓 宝積寺(宝寺)、 観音寺(山崎聖天) 方面の清掃活動	24名

(注) 参加者欄の中止とは、新型コロナウイルス感染蔓延により中止しました。

令和3年度 業務報告

令和4年4月22日

	業 務 内 容	人 数
大学業務	1. 同窓研修会会員対象 「企画・運営員による企画及び運営」	企画・運営員 6名
	①京都見聞コース（座学1回、現地研修19回） ・見聞セミナー「仏像の話」小嶋一郎先生 ・醍醐寺 ・松尾大社 ・高台寺・圓徳院 ・御室仁和寺 ・三千院・勝林院 ・金戒光明寺 ・バス研修旅行 浄瑠璃寺・岩船寺（2回に分けて実施） ・コース会 亀岡楽々荘	令和3年度修了者 69名
	②見聞コース収支（令和3年度分）（単位 円）	
	収入	支出
	S K Yセンター支給運営資金 2,238,288 （京料理） 255,000	研修費 2,454,020 事務用品 10,550
	研修参加費（バス研修） 184,000	資料コピー代 31,627
	研修参加費（コース会） 138,000	資料郵送代 39,728
	預金利息 20	受講生保険料 15,900
		人件費・交通費 303,550
		振込手数料 220
大学業務	合 計 2,815,308	合 計 2,855,595
		損失 -40,287
	総合計 2,815,308	総合計 2,815,308
	余剰金	
	前年度繰越余剰金 672,747	
	本年度余剰金 -40,287	
	次年度繰越余剰金 632,460	
	2. 一般対象 「運営員による、運営協力」	運営員 11名
	①歴彩・京都学コース	令和3年度修了者 ① 187名
	②体験・地域活動コース	② 39名
会員業務	③知力・情報社会コース	③ 65名
	④健康・スポーツコース	④ 38名
		合計329名
	1. 会員募集	令和3年度末現在
	2. 会員の入会・退会管理、会員名簿の作成・管理	373名
	3. 会員宛通達文書・連絡文書の発送	

令和3年度 収支決算報告書

自 令和3年4月1日

至 令和4年3月31日

〈収入の部〉

(単位:円)

科 目	予算額 (A)	実績額 (B)	対予算残 (A - B)	摘 要
会 費 収 入	800,000	746,000	54,000	会費 一人2,000円 373名
事業負担金収入	1,500,000	0	1,500,000	バス見学研修旅行会費(中止)
雑 収 入	0	5	-5	預金利息
前年度繰越金	160,937	160,937	0	
収 入 合 計	2,460,937	906,942	1,553,995	

〈支出の部〉

科 目	予算額 (A)	実績額 (B)	対予算残 (A - B)	摘 要
事 業 費	1,750,000	146,929	1,603,071	
バス見学研修費	1,500,000	14,235	1,485,765	バス研修旅行中止に伴う返金費用
(実質支出額)		(14,235)		(バス見学研修費 - 事業負担金収入)
会 誌 発 行 費	120,000	105,770	14,230	会誌「ざんぐり」発行費用 年4回
歩 こう 会 経 費	30,000	9,888	20,112	団体行動経費 年1回
地域奉仕活動費	30,000	8,850	21,150	地域奉仕活動経費 年1回
講 演 会 費	50,000	8,186	41,814	セミナー開催経費
SKYフェスティバル関係費	20,000	0	20,000	SKYふれあいフェスティバル出展準備費
会 議 費	170,000	161,070	8,930	
総 会 費	100,000	91,600	8,400	会場費、総会出欠返信用はがき、講師謝礼
そ の 他 会 議 費	70,000	69,470	530	理事会会議室使用料、理事活動補助金、福祉行事保険料
管理運営費	390,000	231,540	158,460	
通 信 運 搬 費	140,000	104,612	35,388	会誌・行事案内等発送費、郵便代
支 払 手 数 料	50,000	45,183	4,817	郵便振替払込手数料
消 耗 品 費	40,000	31,372	8,628	発送用封筒、宛名ラベル、名刺
印 刷 費	40,000	44,373	-4,373	印刷機・コピー機使用料
雑 費	10,000	6,000	4,000	会計監査交通費、お茶代
予 備 費	110,000		110,000	
支 出 合 計	2,310,000	539,539	1,770,461	

次年度繰越金	150,937	367,403	
--------	---------	---------	--

貸 借 対 照 表

令和4年3月31日

(単位:円)

借 方		貸 方	
勘 定 科 目	金 額	勘 定 科 目	金 額
普 通 預 金	835,760	仮受金(次年度会費)	564,000
郵 便 貯 金	95,643	積 立 金	0
定 期 預 金	0	繰 越 金	367,403
合 計	931,403	合 計	931,403

令和4年度 事業計画

令和4年4月22日

部 門	事 業 内 容
研 修 講 座	①令和4年4月22日(金)「京都の地藏盆」 (通常総会講演会) 講師:宇野日出夫先生 会場:ハートピア京都3F 大会議室 ②京都SKYセンターとの共催講演会を実施の方向で検討中 ③講演会 ミニ講座を実施予定 ④「こぼれ話」年4回(6月 9月 12月 3月)発行予定
研 修 旅 行 (3回/年)	①令和4年7月 (夏季 今年度のみ) 6月発行「ざんぐり」で案内書送付 「涼を求め高野山へ、観光電車”天空”、ケーブル乗車 金剛峯寺、奥の院等、参拝・観光、精進料理の昼食」 ②令和4年10月下旬 (秋季) 9月発行「ざんぐり」で案内書送付 「奈良、明日香方面」 ③令和5年1月 (新春初詣) 検討中 *状況により中止あるいは、行き先、内容の変更があります。
健 康 福 祉	①ウォーキング ・令和4年4月11日(月) [春のウォーキング] 「洛西ニュータウン」入居が始まり40年余り高齢化と少子化、でも自然が一杯 阪急洛西口 → 竹の径 → 竹林子供広場 → 大蛇が池 → 小畑川 → 境谷公園 ・令和4年10月 [秋のウォーキング] 計画中 ②目標歩数歩こう会 ・第47回 令和4年4月1日～5月31日迄 ・第48回 令和4年10月1日～11月30日迄
地 域 活 動 (2回/年)	①令和4年5月13日(金) 「春季地域美化活動」 山科での活動 地下鉄柳辻駅より山科川遊歩道～坂上田村麻呂公園～ 勧修寺～地下鉄小野駅方面の清掃活動 ②令和4年11月 「秋季地域美化活動」 活動場所・日程選定中 7月決定予定

令和4年度 業務計画

令和4年4月22日

部 門	業 務 内 容	人 数
大学業務	1. 同窓研修会会員対象 「企画・運営員による企画及び運営」	企画・運営員 7名
	①京都見聞コース（座学1回、現地研修19回）	令和4年度受講者 80名
	◦見聞セミナー「仏像の話」小嶋一郎 先生	
	◦醍醐寺・三宝院	◦泉涌寺
	◦智積院	◦天龍寺
	◦石清水八幡宮	◦御室仁和寺
	◦勝林院・宝泉院	◦妙心寺
	◦金戒光明寺	◦大徳寺
	◦バス研修旅行	◦京料理賞味木乃婦
	◦コース会（聖護院御殿荘）	◦和菓子作り体験甘春堂
	②見聞コース収支（令和4年度分）（単位 円）	
	収入	支出
	S K Yセンター支給運営資金 2,160,000	研修費 2,916,000
	研修参加費（京料理） 375,000	資料郵送代 54,000
	研修参加費（バス研修） 520,000	資料コピー代 50,000
	研修参加費（コース会） 375,000	事務用品 30,000
		受講生保険料 30,000
		人件費・交通費 350,000
	合 計 3,430,000	合 計 3,430,000
	余剰金 前年度繰越余剰金 632,460 本年度余剰金 0 次年度繰越余剰金 632,460	
	2. 一般対象 「運営員による、運営協力」	運営員 10名 令和4年度受講者
	①歴彩・京都学コース	① 200名
	②体験・地域活動コース	② 50名
	③健康・スポレクコース	③ 50名
	④スマホマイスターコース	④ 50名 合計350名
会員業務	1. 会員募集 2. 会員の入会・退会管理、会員名簿の作成・管理 3. 会員宛通達文書・連絡文書の発送	令和4年度会員 目標 330名

令和4年度 収支予算

自 令和4年4月1日
至 令和5年3月31日

〈収入の部〉

(単位:円)

科 目	前年度予算	前年度実績	今年度予算	摘 要
会 費 収 入	800,000	746,000	660,000	令和4年度会費 一人2,000円 330名
事業負担金収入	1,500,000	0	2,400,000	バス見学研修旅行 年3回
雑 収 入	0	5	0	
前年度繰越金	160,937	160,937	367,403	
収 入 合 計	2,460,937	906,942	3,427,403	

〈支出の部〉

科 目	前年度予算	前年度実績	今年度予算	摘 要
事 業 費	1,750,000	146,929	2,680,000	
バス見学研修費	1,500,000	14,235	2,400,000	バス見学研修旅行費用 年3回
(実質支出額)		(14,235)		(バス見学研修費 - 事業負担金収入)
会 誌 発 行 費	120,000	105,770	150,000	会誌「ざんぐり」発行費用
歩 こう 会 経 費	30,000	9,888	30,000	団体行動経費 年2回
地域奉仕活動費	30,000	8,850	30,000	地域奉仕活動経費 年2回
講 演 会 費	50,000	8,186	50,000	SKYセンター共催講演会費他
SKYフェスティバル関係費	20,000	0	20,000	SKYふれあいフェスティバル出展経費
会 議 費	170,000	161,070	170,000	
総 会 費	100,000	91,600	100,000	会場費、総会出欠返信用はがき、講師謝礼
そ の 他 会 議 費	70,000	69,470	70,000	理事会等会議室使用料、理事活動補助金
管 理 運 営 費	390,000	231,540	290,000	
通 信 運 搬 費	140,000	104,612	120,000	会誌・行事案内等発送費、郵便代
支 払 手 数 料	50,000	45,183	50,000	郵便振替払込手数料
消 耗 品 費	40,000	31,372	40,000	宛名ラベル、封筒、事務用品
印 刷 費	40,000	44,373	50,000	印刷機・コピー機使用料
雑 費	10,000	6,000	10,000	会計監査交通費、お茶代
予 備 費	110,000	0	20,000	
支 出 合 計	2,310,000	539,539	3,140,000	

次年度繰越金	150,937	367,403	287,403
--------	---------	---------	---------

通常総会講演会 2022年4月22日

講演会「京都の地蔵盆」を聞いて

会長 井上 昌幸

元・京都市歴史資料館主任研究員の宇野日出生先生に、「京都の地蔵盆」と題する話を伺った。

地蔵盆は、京都を中心とした滋賀・奈良・大阪・兵庫・福井の各府県などに見受けられるが、全国的ではないため、存在そのものを知らない方も大勢いらっしゃるとのこと。史料として確認できるのは、江戸時代17世紀中頃以降で、僧侶の遺稿に「京中辻々ノ地蔵祭、去年七月ヨリ童部共、見事ニ致シ候、此五月ニモ盆ヲ待兼候テ、辻々ニテ祭ヲ見事ニ致候」と、子供達が地蔵祭を待ちかねていたと、記されています。

京都では、中世以降、地蔵信仰が多くの人々に受け継がれ、おびただしい地蔵は江戸時代になっても大切に祀られていました。明治時代を迎えると、地蔵祭祀の禁止、地蔵堂や石仏の売却、盂蘭盆会に行われる風習や飲食の禁止といった内容の京都府布令書が出されたとのこと。明治維新の影響が庶民の祭にも影を落としたが、地蔵に対する庶民の信仰が強く、明治16年以降には再興する運びとなった、とのことでした。

地域と世代をつなぐ町の伝統行事として、地蔵盆は大切に守られて、町内安全や子供たちの健全育成を願う行事として受け継がれてきました。京都市では、平成25年に「京都をつなぐ無形文化遺産」制度を創設し、翌年11月に「京の地蔵盆」を選定した、とのことでした。

講演の後半は、写真家・神谷潔氏の、子供たちの笑顔が溢れる地蔵盆の写真が紹介されました。「僧侶の読経に合わせて、大きな数

珠をまわす『数珠まわし』」「町内の声楽家のお母さんの指導で、老若男女が声を合わせる」「大学の児童サークルのお兄さんお姉さんによる人形劇を見入る」「福引きの景品が、カゴに乗って降りてくる『ふごおろし』」「大学の落語研究会のお兄さんによる熱演、子供たち相手に、ちょっと苦戦」「空が暗くなるころ、町内全員集合、道路上で大懇親会」「『おやつですよ〜』と町内に触れ回る、これは子供たちの仕事」。

一番私の記憶に残る写真は「町内にもう子供はいない。でもお供えとお飾りは欠かせない」です。私が住む町でも、子供が少なくなつて、高齢者が増えています。地蔵盆はどの様に形を変えて生き残っていくのでしょうか？



宇野日出生先生講演風景

春のウォーキング 2022年4月11日

洛西ニュータウン 春のウォーキングに参加して

監事 堀井 信一

天候が気になったが、当日の4月11日(月)は曇りで時々晴れ。まだ4月なのに、予想気温27度で暑くなりそう。

早めに歩き家をでる。阪急洛西口駅に、定刻の9時30分少し前には23名(男性15名、女性8名)全員集合。木村リーダーの挨拶の後、準備体操抜きで即出発。洛西口駅から、広い国道9号線をまっすぐ西へ。物集女町から左折し、爽やかな春風の吹く『竹の径(みち)』(洛西竹林公園)に入る。両側の竹林の中、「シャガ」の白い花が丁度満開でとても美しい。そしてよく手入れされた竹藪を眺め、もうすぐ見事なタケノコの収穫が始まり、美味しい筍料理を味わう楽しみを想像した。

10時50分、「大蛇が池公園」着。恐ろしい名前だが、ダークグリーンの深そうで美しい静かな池。公園整備会社により、数年前来た時よりきれいに整備されている。新築木造の優雅で、子供用の可愛いトイレもあり。池の向こうには緑の西山連峰が美しい。快適。ビールが飲みたい!~然し飲んだら歩けないし……。小畑川桜並木はもう葉桜になってお

り、2週間遅いが、楓の新緑が輝くように美しい。

10km近く歩き、11時42分国道9号線の「境谷大橋バス停」前で解散。

2020年の日本人平均寿命は、男81.64歳、女87.74歳で、過去最高を更新とか。平均寿命をクリアしている人(ぼくも含め)もいるはずなのに、皆んな少し歩き足りない感じ~?? 帰りには冷たいビールで喉を潤し、今日の歩数目標もクリア出来(18983歩)「春のウォーキング」を終えました。



大蛇が池



同窓研修会主催 ミニ講座

府立植物園 早春の草花巡り

副会長(研修講座担当) 岩本 照美

日 時： 令和4年3月28日(月) 午前10時から12時
場 所： 京都府立植物園 京都市左京区下鴨半木町
演 題： 植物観察会 早春の草花巡り
講 師： 青木 壽子 氏(京都府立植物園公認ガイド)
受講者数： 16人

日に日に暖かさが増して桜の開花も始まり、講座の開始を待ち望んでいた気持ちが伝わったのか、当日は、好天に恵まれ、少し冷たさを感じさせるさわやかな風が背中を押してくれながらの開始となった。

25人参加予定の受講者もそれぞれ事情があり、当日は16人となってしまった。早咲きの桜が見ごろであり、ミニ講座としては、初回の講座でもあったので、少し残念な気持ちが残ってしまった。

参加された方は、春を感じさせる草花に感嘆の声、ガイドの説明に熱心に耳を傾け聞き入る姿が見られた。

ガイドの青木様は、肩書にもあるように京都府立植物園の公認ガイドであり、植物のことに関しては、長きにわたって草花や樹木に関わってこられた経験を活かし、内容豊かな案内をされている方である。

当日も草木の生態、分類等の話から、植物の自ら備えた生き抜く力、古事記の中に書かれた草花を現世にも見ることができるその生命力の話など、園内の木々の前で、その説明を聞くと、思わず草木の姿に敬意を表したいような気持ちになってしまい、内容豊かな案内に聞き入ってしまった。

青木様も植物の生き抜く力に感動、万葉の時代にまで思いをはせて、その時代を実際の

草花を見ながら思い描いてみる豊かな情感、そんな思いを込めて話されるので、その言葉に心が揺り動かされる感があった。

又、草木の生態に関しては、柳の木には、生理活性物質のサリシンが分離されサリチル酸を得ることや、アスピリンを合成させているなど、本来、木々が生き抜くために蓄えていた物質を人間が、薬効として活用している話もあり、柳の木のみならず、他の草木でも植物と人との共存についてあるのだと聞き、新たな知識を得る機会となったことを聞き入る方の表情から感じるものがあった。

又、草木の分類に関しては、現在は、DNAでの分類となっているが、以前は、花の形から分類していたとか、葉の形、花の形等々、類似点を見ながらの分類は、形から見える。その類似点も具体的な木々の前で説明を受けることができた。

桜に関しては、ヤマザクラ群、エドヒガン群、マメザクラ群、チョウジザクラ群、サトザクラ(雑種からなる群)からなり100以上の種類の花の色や形、咲き方を見ると、交配した親の姿が新種の花に顕著に出ており、その出生を見ることができると説明を受けた。実際の花を見て確認すると、確かにその姿が確認でき、桜の種類の見方の新

しい発見があり、ワクワクしながら興味津々で、花の形を眺める姿も見られた。アンケートには、ソメイヨシノは、オオシマザクラとエドヒガンの特徴が見られ、両者を掛け合わせたものと初めて知ったと書かれていた。

まだまだ、紙面で伝えたいことは、たくさんあるが、最後に印象に残った、バクチノキの木と、竹の節を紹介しておこうかと思う。

バクチノキから知る木々の光合成、葉だけではなく、樹皮の下でも光合成をしており、身ぐるみはがれるように皮を落としていく姿は、木の成長のために道理にかなった活動をしているのだと知った。ばくちで身ぐるみはがれることと重ね「バクチノキ」と命名された。命名者の発想はすごいと思わず笑みがこぼれた。

竹は、節の下にガスを出す穴と水を吸いあげる穴をあけて活けると、葉が枯れないとか。一度試してみようと思ってしまった。

兎にも角にも幅広い視野で、溢れんばかりの植物の案内に記憶が伴わない・・・でも、

皆さん草木を愛でながら、日常の生活から離れ、生き生きと虫や鳥などと共存、たくましく伸びやかに成長し、あでやかな姿を見せてくれた草木を見ながら充実した時間を過ごしたことは、何にもまして至福の時間であったのではないのでしょうか。

アンケートには、次々出る知識の理解についていくのが大変だったが、一つだけでも知りえたことに喜びを感じる声も書かれていた。皆さん、充実した時間を過ごせたことに感謝、又、秋にも同じ企画をしてほしいという声が上がっていた。

最後に初めての企画である講座の成功を願い、思いを込めて携わってくださったガイドの青木様に感謝の気持ちを述べたいと思います。

至福の時間をありがとうございました。

又、京都S K Yセンターの小池様、同窓研修会の理事の皆様、当日の支援ありがとうございました。細やかな配慮に感謝いたします。



ミニ講座風景



ミニ講座風景



事務局だより

夏のバス研修旅行

日 時：令和4年7月11日（月）
 場 所：高野山方面
 （詳細は別紙を参照してください）

共催講演会—その1

日 時：令和4年7月25日（月）
 場 所：ロームシアター京都
 演 題：大地変動の時代へ
 ー生き抜くための地震学ー
 講 師：鎌田浩毅先生(京都大学名誉教授)
 （詳細は別紙を参照してください）

共催講演会—その2

日 時：令和4年9月12日（月）
 場 所：ロームシアター京都
 演 題：高齢者とデジタル
 講 師：若宮正子先生（ITエバンジェリスト）
 （詳細は別紙を参照してください）

次号「ざんぐり」(109号)の予定

発行日：令和4年9月15日（木）

京都見聞・こぼれ話

第4号「東寺 国宝・五重塔の邪鬼」をお届けします。

ひねもす
のたりのたり

監事
米澤 可矢作

[ご意見をお聞かせください]

今年の通常総会資料の表紙は、地球深部探査船「ちきゅう」のイラスト。総会開催日4月22日が、「アースデイ 地球の事を考えて行動する日」に一致したからです。この縁を大切にして、本当の豊かさってなんだろう？ 幸せに生きるってどういうことだろう？ をいま一度振り返ってみたいと思います。次号ざんぐりで、「アースデイ」の活動状況を紹介する予定です。

私たちシニアは、孫ひ孫に何が残せるのでしょうか？ 簡単にできる小さなことから考えていきたいと思います。ご意見をお聞かせいただければ幸いです。